

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

2月号 発行 平成24年2月24日



〈東日本大震災関連〉



「いわき地方の農林畜産物モニタリング調査結果」について

福島県が行ったいわき地方の1月の農林畜産物のモニタリング調査結果をお知らせします。

まず、米の緊急調査の結果ですが、県北地方の玄米から基準の500ベクレルを超える玄米が確認されたことから、いわき地方でも調査を行いました。調査した2,858戸のうち、98.6%に当たる2,819戸からはセシウムが検出されず、検出された農家の玄米でも4月からの新基準である100ベクレルを超えたものはありませんでした。(表1)

次に米以外ですが、調査した16品目28点のうち、ユズ1点が規制値を超えましたが、その他の15品目27点は検出限界値以下でした。(表2、表3)

なお、2月13日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)や野生きのこユズ、加工品では乾シイタケとなっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果を確認し、ご納得のうえ是非いわき市産の農林畜産物をご賞味ください。

いわき地方の米の放射性物質緊急調査結果 (表1)

放射性物質が検出されなかった農家戸数	放射性物質が検出された農家戸数		計
	規制値内で検出された農家戸数	暫定規制値を超過した農家戸数	
2,819	39	0	2,858

米以外の農林畜産物の調査結果 (表2)

放射性物質が検出されなかったものの数	放射性物質が検出されたものの数		計
	規制値内で検出されたものの数	暫定規制値を超過したものの数	
27	0	1	28

品目別の調査結果

(表3)

1点も放射性物質が検出されなかった農林畜産物の品目	暫定規制値を超過した農林畜産物の品目
サニーレタス トマト(施設) 菌床ナメコ(施設) コマツナ ミツバ(施設) 牛肉 イチゴ(施設) ネギ 原乳 葉ネギ(施設) ナバナ キャベツ シュンギク(施設) ブロッコリー ホウレンソウ(施設)	ユズ

暫定規制値(放射性セシウム) 500Bq/kg



「JAいわき市ファーマーズマーケット(直売所)部会研修会」が開催されました。

1月24日(火)、小名浜の結婚式場「カルチェドシャン・ブリアン」において、JAいわき市ファーマーズマーケット部会の主催により平成23年度第3回研修会が開催されました。

研修会には部会員約70名が出席し、春野菜栽培及び食品表示等について説明が行われました。

始めに、「春野菜の栽培について」として種苗会社担当者よりグリーンカーテンを目的とした野菜の紹介や主な春野菜の栽培に当たっての留意事項等が説明されました。

続いて、「震災・放射線対策と今後の地域農業の取組について」としていわき農林事務所農業普及指導員より説明しました。

内容は、震災・津波による浜通りの耕作地や農作物の被害の概況、原子力発電所事故に伴い県が行っている農産物モニタリングや土壌放射線量調査、米の緊急調査結果の概要、農地除染への取組み等でした。

参加者からは、いわき市民を対象に、広くこのような講演を開催し、風評被害の払拭に努めて欲しい等の意見もありました。

最後に、いわき農林事務所食品表示担当者より食品表示のポイントなどを解説した「食品表示マニュアル(農産物漬物編)」の資料により正しい漬物類の表示方法について説明を行いました。

参加者は、消費者に対する商品選択のための正しい情報提供の重要性について理解を深めていました。



(ファーマーズマーケット部会研修会の様子)



「農用地除染に伴う反転耕実演会」を開催

2月2日(木)、いわき市大久町小久地区において、福島県の主催により、農用地除染のための「反転耕実演会」が開催され、関係機関・団体、農業者等150名を超える方が参加されました。

県では、農用地の除染について、ほ場の表土剥ぎ取り技術の実証や放射性物質の吸収抑制対策技術の開発を国等と連携しながら進めています。

反転耕は、プラウ(トラクタに接続する機械)により表層土を下層に、下層土を表層に土層を反転させる技術として、表土除去が行えないほ場や水利の不便なほ場に対して有効となるものであり、廃棄土が出ないメリットもあることから、この技術を広く農業者に理解していただくために実演会を開催したものです。

実演会は始めに座学を1時間程度行いました。参加者からはプラウ以外を使っての除染方法や除染計画策定の進捗状況等熱心な質問が出ました。

続いてほ場において実演が行われ、反転耕の4つの工程、大型機械を使ってのプラウによる反転耕(土の天地返し)、トラクターによる踏圧(土を踏んで表面を締める)、バーチカルハローによる砕土(固まった土を細かくする)、レーザーレベラーによる均平(土の表面を平坦にする)作業が手際よく進められました。

いわき農林事務所では、今後も農林地の除染技術の普及を加速させ、いわき市が計

画し実施を行う除染作業等を支援していくこととしています。



(プラウによる反転耕実演の様子)



「水産物の放射性物質に関する調査結果説明会」が開催されました。

2月10日(金)、いわき市中央台公民館において、県水産試験場の主催により、いわき地区の漁業関係者約80名が参加し「水産物の放射性物質に関する調査結果説明会」が開催されました。

説明会では、水産試験場担当者から3つの課題について発表がありました。

最初の「水産物の放射性物質モニタリング調査結果について」では、エビ・カニ類、イカ・タコ類、貝類などにおいては放射性セシウムの濃度が低い傾向にあること、海域別では原発南側の浅い海域の魚介類で濃度の高い状況が続いていること等が報告されました。

次に「魚の部位ごとの放射性セシウム測定結果について」では、肝臓や卵巣など筋肉以外の部位は筋肉より濃度が低いことが報告されました。



(水産物の放射性物質に関する調査結果説明会の様子)

最後に「魚介類の餌料生物等の放射性セシウム調査について」では、魚のエサとなる小型のエビ・カニなどは時間経過とともに濃度が低下する傾向にあるものの、沖合のゴカイの仲間では比較的高い傾向にあることから、今後も動向を注視していく必要があることが報告されました。

水産試験場では、今後も適宜報告会を開催し、漁業者との情報共有を図ることとしています。

本県の魚介類のモニタリング結果は福島県水産試験場ホームページにも掲載されていますのでご覧ください。

(<http://wwwcms.pref.fukushima.jp>)

〈一般情報〉



第2回「直売所と生産施設めぐり」を開催

1月28日(土)、植田町の「ドンワッセうえだ 駅まえ市」ほかにおいて、いわき農林事務所主催による第2回いわきの農産物「直売所と生産施設めぐり」が実施されました。

この事業は、東日本大震災及び原子力発電所事故により避難を余儀なくされた双葉郡の避難者と最寄りの直売所、農産物の生産施設を見学を通じて結ぶものです。前回の広野町の仮設住宅に続いて、今回は双葉町の仮設住宅居住者を対象に行い、24名の参加がありました。

最初に訪れた田人観光いちご園では、ハウスでイチゴを生産する蛭田氏より施設の説明を受けた後、甘い香りの真っ赤なイチゴ「章姫(あきひめ)」を摘み取って味わったほか、ハウス内で直売しているイチゴを行列になって購入していました。



(田人観光いちご園でのイチゴの摘み取りの様子)



(ドンワッセうえだ 駅まえ市での品定めの様子)

次に訪れた植田町の直売所「ドンワッセうえだ 駅まえ市」では、勿来地域で取れた新鮮な農産物や加工品などを買い求めていました。

参加者からは、「植田駅前にこのような店舗があったことを初めて知った」、「今後も積極的に利用したい」等の声が聞かれました。

3箇所目に訪れた渡辺町の農事組合法人いわき菌床椎茸組合では、磯上理事から安全・安心のための取組みや椎茸の生産工程について説明を受け、参加者は関心するとともに初めて見た菌床椎茸の様子に驚いていました。

また、参加者の中には自分で菌床椎茸を生産してみたいので相談したいなどの具体的な要望もありました。

最後は「いわき・ら・ら・ミュウ」を訪れ、多くの魚介類や海産物などを購入しました。

この「直売所と生産施設めぐり」の実施により、消費者と生産者との交流による絆づくりが図られるとともに、風評被害払拭のための安全・安心の取組みについて理解を深めていただくことができました。



(いわき菌床椎茸組合で施設の説明を受ける様子)



田んぼの学校「修了式」を開催

1月25日（水）、いわき市立夏井小学校において、同小学校と連携して実施する「田んぼの学校」の修了式を行いました。始めに、児童たちは「田んぼの学校」の1年間を振り返り、これまで活動に協力していただいた田んぼの学校応援団の皆さんの前で、ぼかし肥づくりから脱穀までの活動について感想を発表しました。



（田んぼの学校修了式で感想を発表する様子）

その後、昨年4月から田んぼの学校活動を行ってきた5年生児童に田んぼの学校の阿部校長から修了証書が授与され、児童たちは1年間の活動と成果を振り返っていました。

今回で夏井小学校においての「田んぼの学校」活動は終了しますが、これまでの活動体験が子どもたちの成長に大いに役立ったものと思われまます。

なお、次年度は新たな学校を対象として「田んぼの学校」活動がスタートする予定です。



（田んぼの学校修了証書授与の様子）



「森林・林業体験学習」が開催されました。

1月25日（水）及び2月7日（火）にいわき市立汐見が丘小学校及び勿来第三小学校において、田人林業研究会の主催により森林・林業体験学習が開催されました。今回の森林・林業体験学習は、スギの間伐材を利用した作品づくりを通じて地元の山の役割や木材の使われ方について知るところを目的として行われました。

始めに、田人林業研究会の豊田会長から福島県やいわき市の森林の状況や森林の持つ重要な役割についての話を聞いた後、児童は、糸ノコを使い各自思い思いのデザインでオリジナルの本立てを仕上げました。

児童たちは、始めのうち道具の使い方にとまどっていましたが、講師の手ほどきを受け、皆仕上がりに満足した様子でした。



（間伐材で本立てを製作する様子（汐見が丘小学校））

いわき農林事務所では、このような体験学習を通じて森林のもつ多面的機能等について普及・啓蒙を図っていくこととしています。



（間伐材で本立てを製作する様子（勿来第三小学校））



平成23年度 グリーン・ ツーリズム推進会議を開催

1月31日(火)、県いわき合同庁舎において、平成23年度いわき地方グリーン・ツーリズム推進会議を開催しました。

実践団体、行政機関等15団体が出席して、各団体の今年度の取組実績及び来年度の計画についての説明がありました。各団体は、東日本大震災により活動の中断を余儀なくされたものの、夏以降、屋内施設を利用したツアー、農産物収穫体験等を実施しており、来年度に向けての意気込みが伝わってきました。

意見交換会では、受入体制や体験行事についての質疑応答や各団体からの意見・要望、情報交換があり、グリーン・ツーリズムの推進は実践団体を中心となり活動の継続やいわきの現状の姿を情報発信すること

が重要であることを再認識し、とても有意義な内容となりました。

県では引き続き、グリーン・ツーリズムの推進による地域の活性化により魅力ある農山漁村の形成を図ることとしています。

グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動



(グリーン・ツーリズム推進会議の様子)

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

行事のお知らせ

第2回いわき地域産業6次化ネットワーク交流会

日時 3月12日(月)15:00~

場所 県合同庁舎4階大会議室

内容 詳細は、後日ホームページ等でお知らせします。

主催 いわき地域産業6次化運営会議

「東日本大震災」及び「原発事故」からの復興のために！

がんばっぺ“ふくしま!!”

がんばっぺよ“いわき!!”



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp

